

---

# 宇宙を越えた愛のメッセージ

A軍 捕虜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

宇宙を越えた愛のメッセージ

### 【Nコード】

N2246BA

### 【作者名】

A軍 捕虜

### 【あらすじ】

大切な人を失ってしばらく、不思議なメッセージが届く様になった。

「ただいまあゝ」

誰も居ない家に私は呼び掛ける。

．．．．．

無論、返事は無い。

．．．私、まだ引きずってる．．．でもさ、吹っ切れようとしても．．．  
．．．「おかえり」って、貴方が笑顔で迎えてくれるような気がして．  
．．．ハア．．．．．駄目だなあ．．．．．あたし．．

彼は5年前、宇宙に行った。

何故かという宇宙飛行士だからだ。

たしか．．．なんとか星の．．．．．えーと、研究．．．忘れた。

これ以上、彼について思い出さなくなかった。だからさっさと結論付け、2階に上がり、着替えた。

えーと、たしか．．．あ、報告書書かないと！

既に深夜だった為、風呂を諦めていた私はパソコン片手に1階に下り、ビールにコンビニ弁当を用意した。

これでよし！

早速、椅子に座り、置いていたパソコンを開き、電源を入れた。  
立ち上がるまで2、3分かかる為、ビールに手を出す。

「ふう、一日終わり！やっぱりビールで一日は閉めないとねえ。  
ま、今1時だけどねえ！」

家に響く虚しい私の独り言。

独り言って言ってる方が辛い！

でも言いたい！

ハッ・・・私は今、空気に話してるんだ！独り言じゃない！  
よし！喋ってやる！

と、変な決意をすると同時に、パソコンが立ち上がった。

弁当とビールに手を出しつつ、三分の一しかできてない報告書を造る。

「ん、たるい。物凄く面倒。」と、連呼しながらだ。

「あ、空が居たらさ、励ましてくれたのに・・・」

ふと、出た言葉が自分の首を絞めた。

ソラ・・・あの時、止めていれば・・・こんな事には・・・  
！・・・駄目駄目！忘れなきゃ！

無意識にこんな事を考えてしまった私は慌て考えを振り払おうと首を振る。

「えーと、売り上げは・・・」

ピルルルル！

「うはぁ！？」

不意に、携帯が鳴った。メールが来たようだ。

「び、びつくりした・・・誰よ！」

携帯を開くと

差出人「I LOVE KIMI@

」

件名「ホラ、綺麗でしょ。」

本文「ねえ、見て、あんなに広い大陸が全て見えるよ！」

「ハア？何コレ？」

知らないアドレスだった。

添付されていた画像を見るとアメリカとカナダが見えていた。明らかに宇宙から撮った画像だ。

「イタズラ？・・・だよね、うん。インターネットから画像取ったんだ。無視無視。」

即座に携帯を閉じ、報告書を上げた頃には3時だった。

\*\*\*

翌日から、毎晩メールが来た。

宇宙から撮ったであろう写真付きで。

しかも、だんだん地球から離れている。

「何なのよ・・・」

かれこれ2年も送り続けられているこのメール、不思議に思った私は友人に相談した。

彼・・・空と私の幼馴染みである宇宙オタク、『南坂 春』だ。

『はい、もしもし?』

「あ!春?」

『え、まさか夏樹!久しぶり!たしか・・・7年振りだ!空の葬式い・・・あ、ごめん・・・』

『いいのよ、あ、相談したいんだけど、時間いいかな?』

『?・・・いいよ!』

私は全部話した。あらかじめパソコンにイタズラメールに添付されていた画像を入れていたから送り、30分掛けての相談だ。

『それ、空じゃない?』

「!?!」

『だって!宇宙からメール届くなら5年掛かるよ!空の場合!』

「でも!そんな!」

『空は、嫁であるあんたの事、心配してたんだよ!だから何年もメール送ってたんだよ!毎日、毎日!』

「そんな・・・」

私の旦那『空』は今から7年前、宇宙に旅立ち、今から6年前に消息を絶った。

そんな・・・なら!消息を絶った時も、私の事、気にして・・・!

「あ、ありがとう。春。」

私は電話を切った。

ピルルルル！

「空！？」

メールに文書はなく、ムービが添付されていた。

『やあ！久しぶり！先に言うけど・・・これは遺言だよ！』

「空っ！」

『今までありがとう。この時僕はもう居ないけど。笑顔でいてね！あと・・・し・・・せに！・・・き・・・！』

最後はなんと言ったかわからない。でも、何を言いたかったのか、理解できた。

ムービなのに、ボイスがなく、ノイズの酷いムービだ。

「でも、私は幸せよ。ありがとう。」

（後書き）

お付き合いありがとうございました。

誤字脱字がありましたら、教えてくださいとありがたいです。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2246ba/>

---

宇宙を越えた愛のメッセージ

2012年1月5日18時46分発行